

日本の現代小説における「てくれる」に対応する 中国語表現について

安 明 姫

Chinese expression corresponding to “tekureru” in modern Japanese novels

AN Mingji

1. はじめに

日本語の「てくれる」は補助動詞として用いられる授受表現である。小学館（2015）及び講談社（2006）発行の日中辞典では、補助動詞「てくれる」は“给”、“给我”、“我(们)”を用いて訳されている。しかし、「てくれる」に対応する中国語表現には“给”が含まれない場合がある。つまり、原文に日本語の「てくれる」という表現があっても、中国語では“给”が省略されることが多く、“给”で訳されるとは限らない。本稿では森田（2002）の意味分類に基づき、地の文と会話の文から構成されていて「てくれる」の用例が豊富な日本の現代小説5冊及びその訳本である中国語版を対象にして「てくれる」の表現がどのように翻訳されているのかを明らかにする。

2. 先行研究

授受表現の構造に関する研究としては、宮地（1965）、村上（1986）、三宅（1996）などを挙げることができる。宮地（1965）では、受給補助動詞「～てやる・くれる・もらう」を述語末尾に持つ構文の基本は、受給動詞述語句の構文¹にあると見るべきではあるが、それだけでなく、ちょうど受身の格の助動詞が構成した格関係と対応的な、内的な複雑さ²が加わると述べている。村上（1986）では site-yaru, site-kureru, site-morau のかたちの動詞を述語に持つ文、つまり「やりもらい構造の文」とか「受給表現の文」とよばれている文について大量の例を挙げて考察している。site-kureru 構文においては、一人称の人間が利益、恩恵の受け手として補語の位置にすえられるのが基本的な構造であると述べている。三宅（1996）で

は日本語の受益構文³における与格名詞句⁴の生起ということに着目して考察を行っている。

「てくれる」に着目して考察を行った西川（1995）では、「てくれる」は事象についての表現主体の感情表現であり、恩恵の受け手は表現主体であり、恩恵の与え手は行為の与え手ではなく、事象全体であると述べている。「雨が降ってくれた。」「花子は大助に私との秘密を話さないでいてくれた。」「娘の病気がやっと治ってくれた。」などの例を挙げている。例えば、「雨が降る」という事象自体は、表現主体に恩恵をもたらすものであるから「くれる」を用いることができる、という説明が適当であると主張している。新版日本語教育事典（2005）では、「（夫に向かって）ご飯作った？」と「（夫に向かって）ご飯作ってくれた？」両者の場合、後者が「夫がご飯を作る」という事態を恩恵的なものと捉えていて前者よりも待遇的な配慮が含まれた表現であると記述している。そして、例えば「とんだことをしてくれたな。」のような文脈から明らかに非恩恵とわかる場合は、恩恵を表さない用法となると述べている。

中日対照研究に関しては党淑蘭（1991）の研究がみられる。党淑蘭（1991）では、中日授受表現について補助動詞による表現とやりとりの描き方について分析し、一、中国語では、授受における積極的な行為者がはっきりしているが、日本語では曖昧である。二、視点が、中国語では積極的な行為者の表示に関わるが、日本語では待遇的な側面に関わることがあると指摘している。その理由として日本語では、行為の積極性ということは焦点にならないが、中国語では、欠かせない情報となっていると述べている。

授受表現の意味・用法の分類については森田（2002）が挙げられる。森田（2002）では「てくれる」の意味について、①感謝（BがAにCヲ～てくれる）（例：一生懸命働いてくれた。／自然が人々に豊かな恵みを与えてくれる。）②迷惑（例：とんでもないことをしてくれたよ。）③許可・許容（AにCヲ～（さ）せてくれる）（例：今からでも試験を受けさせてくれるといいが。）④希求・懇願（～てくれ／～てください／～てちょうだい）（例：お先に帰らせてください。／早く帰ってくれ。／わかってくれよ。）⑤不利益の供与（AがBに～てくれる）（例：目にもの見せてくれようぞ。／（時代劇で）成敗してくれる！）に分類されている。そして、ここでいう①感謝の意味は「てくれる」の本来の基本的意味であり、②～⑤はその状況がもたらす結果的意味、すなわち文脈による派生義と考えられると述べている。

日本語の「てくれる」についての研究および中日授受表現についての研究はそれぞれ多数あるが、日本語の特徴でもある「てくれる」が中国語ではどのように表現され、翻訳されているかについては研究が十分とは言えない。そこで、本稿では、「てくれる」の構造よりも意味用法に焦点を当て、森田（2002）の分類に従い、各々の意味用法がどのように中国語の表現に対応しているかを個々の事例に従って詳しく提示して論じる。

3. 日中辞典に収録された「てくれる」の中国語訳

まず、「くれる」「てくれる」の中国語訳が日中辞典では、どのように収録されているのかをあらためて確認しておきたい。『日中辞典（小学館）』、『日中辞典（講談社）』では、それぞれ以下のように記述されている。

『日中辞典（小学館）』（2006：551）：くれる【呉れる】1. 給（我）兄が本をくれる。／哥哥给我书。彼女は毎晩電話をくれる。／她每天晚上都来电话。息子はめったに手紙をくれない。／儿子很少来信。父のくれた時計が私の宝物だ。／父亲给的表是我的宝贝。金には目もくれない。／连看也不看钱一眼；不为金钱所动。2. 物をやる（含有鄙意地）给 そんなにほしけりゃくれてやろう。／既然那样想要就给你吧。3. （（「…てくれる」の形で））先生がよく教えてくれる。／老师耐心地教我（们）。新聞を持ってきてくれ。／把报纸拿给我。

『日中辞典（講談社）』（2015：545）：くれる【呉れる】给◆父は高校進学祝いに電子辞書を買ってくれた。／爸爸为了祝贺我上高中，送了一个电子词典给我。◆この歌は母が教えてくれた。／这首歌是妈妈教给我的。◆彼女はわざわざ駅まで迎えに来てくれた。／她专门到车站来接我了。◆出て行ってくれ。／你给我出去！◆目もくれない。／不放在眼里。◆目に物見せてくれる。／给苦头吃。◆げんこをくれる。／给吃拳头。◆このことはだまっていってくれ。／这件事不要说给别人〔跟别人说〕。

上記から、小学館の『日中辞典』と講談社の『日中辞典』の共通点は、どちらも「てくれる」が主に“給”“给我”で訳されている、ということがわかる。相違点は、『日中辞典』小学館では、動詞「くれる」と補助動詞の「てくれる」を分けて記述しているが、『日中辞典』講談社では、分けず、例文も「てくれる」の例文が主となっていることである。そして、「てくれる」についての例文を見ると、『日中辞典』小学館では、森田（2002）の分類の①感謝④希求・懇願の例文を挙げているのに対し、『日中辞典』講談社では、①感謝④希求・懇願⑤不利益の供与の例文を挙げている。

4. 日本の現代小説における「てくれる」の出現状況

本稿ではまず、近年刊行された日本の現代小説のうち、中国で広く知られ、翻訳されている異なる著者の5冊、及び中国語訳本5冊を対象に「てくれる」がどのような意味用法で、どれくらい使われているかを調査・分析した。この5冊に出現している「てくれる」の意味用法の分類は、筆者と長年の中国語教育経験のある日本語母語話者の1名計2名が森田（2002）に従い、客観的に認定した。表1はその結果である。

5冊の現代小説及び中国語の訳本は以下のとおりである。

1. 『ある閉ざされた雪の山荘で』 東野圭吾著 講談社（1996）

- 《大雪中の山庄》李盈春译 北京出版集团公司 北京十月文艺出版社 (2017)
2. 『火車』 宮部みゆき 著 新潮文庫 (1998)
《火车》张秋明译 南海出版公司 (2009)
3. 『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』 村上春樹 著 文藝春秋 (2013)
《没有色彩的多崎作和他的巡礼之年》施小炜译 南海出版公司 (2013)
4. 『羊と鋼の森』 宮下奈都 著 文藝春秋 (2015)
《羊与钢的森林》罗越译 中信出版集团 (2017)
5. 『天気の子』 新海誠 著 角川文庫 (2019)
《天气之子》林青华译 百花洲文艺出版社 (2019)

表 1 「てくれる」の作品・意味別使用数と割合

作品	①感謝	②迷惑	③許可・許容	④希求・懇願	⑤不利益の供与	作品別 合計
ある閉ざされた 雪の山荘で	17 (31%)	2 (4%)	0 (0%)	36 (65%)	0 (0%)	55
火車	128 (70%)	1 (1%)	7 (4%)	46 (25%)	0 (0%)	182
色彩を持たない 多崎つくると、 彼の巡礼の年	73 (94%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (6%)	0 (0%)	78
羊と鋼の森	59 (78%)	0 (0%)	4 (5%)	13 (17%)	0 (0%)	76
天気の子	22 (58%)	0 (0%)	0 (0%)	16 (42%)	0 (0%)	38
用法別合計	299 (70%)	3 (1%)	11 (3%)	116 (27%)	0 (0%)	429

表1をみてわかるように補助動詞として用いる「てくれる」の出現数は全作品中429例ある。作品ごとにみると、『ある閉ざされた雪の山荘で』を除いて「感謝」の意味として用いられる使用数と割合が最も多い。その次が、「希求・懇願」の意味用法である。全体的にみても最も多い使用数と割合は「感謝」であり、70% (299例) を占め、次が「希求・懇願」で27% (116例) である。「許可・許容」と「迷惑」の用法は全作品中、それぞれ11例と3例で、3%と1%を占めるのみである。「不利益の供与」の意味用法は1例も出現していない。

なお、5冊の作品の中に動詞「くれる」の用法として現れたのはごくわずかであり、7例しかなかった。

表2は依頼表現形式である「てくれる?」、「てくれます?」、「てくれない?」、「てくれな
いか」、「てくれませんか」、「てくださいますか」の使用数であるが、森田 (2002) の分類
には該当せず、今回は分析対象外とする。

表2 「てくれる」を用いた依頼表現の使用数

作品	てくれる？	てくれます？	てくれない？	てくれないか	てくれませんか	てくださいますか	作品別 合計
ある閉ざされた雪の山荘で	1	0	1	3	0	2	7
火車	1	0	0	8	4	1	14
色彩を持たない多崎つくと、彼の巡礼の年	4	0	1	4	1	0	10
羊と鋼の森	1	0	0	1	0	0	2
天気の子	3	1	0	0	1	0	5
合計	10	1	2	16	6	3	38

5. 「てくれる」に対応する中国語表現についての分析

「てくれる」が具体的にどのような中国語表現で訳されているかを明らかにするために、意味用法ごとにその表現を集計した。日本語の各小説に現れた「てくれる」に対応する中国語表現についても、筆者と中国語教育経験のある日本語母語話者1名計2名で認定した。

表3は「てくれる」に対応する各意味用法における中国語の表現別出現数である。表3

を見るとわかるように、「①感謝」の意味を表す「てくれる」に対応する中国語表現が豊富でいろいろなバリエーションがあることが明らかになった。そして、中国語表現がない「訳なし」が203例で最も多く、68%を占めている。その次に“我”で対応しているのが26例(9%)である。“他”と“她”で表現しているのが13例で、“帮他”(3例)、“给他”(1例)、“对他”(1例)、“为他”(1例)を含めると19例ある。日中辞典に提示されている“给”、“给我”、“我”、“我们”の表現に比べて、実際は表3のように表現が多様であり、“给”のみで表現しているのはわずか1例である。“给”の他に“给我”(7例)、“给自己”(1例)、“给他”(1例)、“给+人名”(2例)、“给人”(1例)を含めても計13例で4%しか占めていない。中国語表現が多様な理由として、日本語の「てくれる」の特有の性質と構文に関係があると言える。そして文学作品において、作家は登場人物の立場に立って、描写することができ、中国語の翻訳では、その利益・恩恵の受け手を明らかにしているからであろう。三人称及び人物名が「てくれる」文で利益、恩恵の受け手となっているのも文学作品だからである。村上(1986)ではsite-kureru構文において利益、恩恵の受け手は、「わたし(ぼく)のために、自分のために」のかたちで明示されるものもあるし、明示されないものもある、文の構造上は利益の与え手から述べながらも、「話し手(わたし)」は利益の受け手の立場にたつ表現であると指摘している。そして、site-kureru構文は、文学作品、とくに小説などの地の文にとっては、都合の良い構文で、作家は、作品のなかに露骨に自分を登場させずに、登場人物の行動

表 3 「てくれる」に対応する各意味用法における中国語の表現別出現数

①感謝	出現回数	合計	299
訳なし	203	②迷惑	出現回数
我	26	訳なし	3
帮我	8	合計	3
给我	7	③許可・許容	出現回数
让我	3	訳なし	6
对我	3	我	3
跟我	2	给他	1
替我	1	给 + 人名	1
为我	1	合計	11
向我	1	④希求・懇願	出現回数
自己	2	訳なし	51
为自己	2	请	32
给自己	1	吧	11
我们	2	请…吧	3
帮我们	2	请让我…吧	1
帮你们	1	请帮我	1
他	9	请我们	1
她	4	帮我们…吧	1
帮他	3	得帮我	1
帮 + 人名	1	我	3
帮忙	6	让我	1
给他	1	要让我	1
给 + 人名	2	要我	1
对他	1	给我	1
为他	1	要	3
为 + 人名	1	想要	1
给	1	要求	1
给人	1	希望	1
让	2	快	1
让人	1	合計	116

の中に自分自身をひそませていくと述べている。

例(1)～(4)は「感謝」の意味で「訳なし」の場合である。日本語の地の文である例(1)、(2)(4)では利益、恩恵の与え手と受け手が顕在されている。会話文である例(3)では利益、恩

恵の与え手と受け手の話し手が明示されている。この場合、中国語では、日本語特有の補助動詞の「てくれる」を訳さなくてもその授受関係をはっきり示すことができる傾向がある。

- (1) そこでは穏やかに時間が流れ、心を許せる友人たちが彼を待っていてくれた。

(村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』)

在那里，时间平稳地流淌，可以推心置腹的友人在等着他。

(施小炜译《没有色彩的多崎作和他的巡礼之年》)

- (2) 泳ぐことは身体に蓄積された疲労を和らげ、緊張した筋肉をほぐしてくれた。

(村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』)

游泳缓解了身体积蓄的疲劳，松弛了紧张的肌肉。

(施小炜译《没有色彩的多崎作和他的巡礼之年》)

- (3) 「その人に会える?」「頼んでみます。きっと時間をつくってくれると思うから」

(宮部みゆき『火車』)

“可以跟他见面吗?”“我试试看，我想他应该能够抽空。” (张秋明译《火车》)

- (4) 大事なことはちゃんと大事な誰かがやってくれる。(宮下奈都『羊と鋼の森』)

重要的事情自然会由重要的人去做。(罗越译《羊与钢的森林》)

例(5)(6)は「感謝」の意味で“我”で訳されている場合であり、例(7)“他”で訳されている場合である。例(7)は作者が小説の中で登場人物の立場にたって描写しているため、「てくれる」が“他”で訳されていることがわかる。

- (5) 世界と私とは隔てられていることを、肌がはっきり教えてくれる。

(新海誠『天気の子』)

肌肤清晰地告诉我，世界和我是隔开的。

(林青华译《天气之子》)

- (6) 「あなたは前にもそんなふうにはめてくれたわね。もしこれが現実の事件なら、素晴らしい殺人計画だと」

(東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』)

“你之前也这样夸奖过我，说如果这是真实发生的命案，就是完美的杀人计划。”

(李盈春译《大雪中的山庄》)

- (7) 実際、本間がローズラインを辞するとき、通用口のところまで送ってくれた片瀬の顔は、洗濯を繰り返してすり切れてしまったシーツのように白っちゃけて見えた。

(宮部みゆき『火車』)

事实上，本间离开玫瑰专线，片濑送他到员工出入口时，表情就像被洗涤过很多遍的床单一样惨白。

(张秋明译《火车》)

例(8)は「感謝」の意味で“帮我”に訳され、例(9)は、“帮忙”で訳されている場合である。

- (8) 「そう。難しいと思っていた。ずっと調べていてくれたんですか」
 (宮部みゆき『火車』)
 “哦，我想很难吧。你一直都在帮我查？”
 (张秋明译《火车》)
- (9) 碇が取り寄せてくれた喬子の戸籍・除籍謄本、附票などに記載された所番地を足場にたぐってゆき、本間は彼の所在を突き止めた。
 (宮部みゆき『火車』)
 本間根据碇贞夫帮忙调出的乔子户籍、除籍誊本、居民卡等文件记载的地址一一探索，找到了他的住处。
 (张秋明译《火车》)

表3で示しているように、「②迷惑」の意味を含む「てくれる」の使い方は3例で、3例とも対応する中国語表現がない。例(10)(11)がそのパターンである。「てくれる」構文で受け手である「私」を表す場合は、中国語では“我”で訳す場合と訳さない場合とがあるが、例(10)(11)は訳さない場合である。

- (10) 「分析とは大層な言葉を使ってくれるね」
 (東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』)
 “你竟然用分析这么夸张的字眼。”
 (李盈春译《大雪中的山庄》)
- (11) おまけにいいところになると、本多雄一が現れて邪魔をしてくれる。
 (東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』)
 好不容易正聊得投机，又冒出本多雄一来打扰。
 (李盈春译《大雪中的山庄》)

「③許可・許容」の意味を表す「てくれる」は11例あるが、「訳なし」が6例、“我”“给他”“给+人名”で訳されている場合がそれぞれ3例、1例、1例である。例(12)は「訳なし」で、例(13)は“我”で訳されている場合である。例(14)は、例(7)と同様に作者が小説の中で登場人物の立場にたって描写しているため、“给+人名”で訳されていると考える。

- (12) 脚の下についている真鍮のキャスターの向きを変えるとピアノの重心が変わる。それを板鳥さんは、ひと目で僕にもわかるようにやってみせてくれた。腕を肩より開いて腕立て伏せをしたら力の入り方が変わる。
 (宮下奈都『羊と鋼の森』)
 调节支撑腿底部琴轮的方向，可以改变钢琴的重心。板鸟先生今天为我亲身示范了一次，还深入浅出地举了个俯卧撑的例子。
 (罗越译《羊与钢的森林》)
- (13) 「最初に声をかけさせてくれるって、約束、忘れてないですよね？」
 (宮部みゆき『火車』)
 “你还记得答应过我，让我第一个跟她说话吧？”
 (张秋明译《火车》)
- (14) ボケの首輪は真新しい頑丈なもので、埋める前に智が見せてくれたが、内側にちゃんとイニシャルが刻んであった。
 (宮部みゆき『火車』)

呆呆の项圈很新很结实，埋葬之前小智曾拿给本间看过，内侧印有呆呆的姓名缩写。

(张秋明译《火车》)

「希求・懇願」を表す「～てくれ／～てください／～てちょうだい」の内訳をみると、「～てくれ」が全 116 例中 55 例、「～てください」が全 116 例中 60 例、「～てちょうだい」は 1 例のみである。中国語で表現されていない「訳なし」が 51 例で最も多い。しかし、「希求・懇願」を示す中国語の表現“请”(32 例)、“吧”(11 例)、“请”・“吧”を含む中国語の表現“请…吧”(3 例)、“请让我…吧”(1 例)、“请帮我”(1 例)、“请我们”(1 例)、“帮我们…吧”(1 例)を合わせると 50 例になる。さらに、「希求・懇願」を示すことができる“得帮我”、“要让我”、“想要”、“要求”、“希望”、“快”の各 1 例と“要”の 3 例を合わせると 59 例となる。「てくれ」は「てくれる」の命令形であるため、中国語の「希求・懇願」を示す中国語の表現“请”、“吧”に“让我”“帮我”“帮我们”の訳が加わったと考えられる。

例(15)～(17)は「希求・懇願」の意味で「訳なし」の場合である。

(15) 「じゃあ、気をつけて帰ってくださいね」 (宮下奈都『羊と鋼の森』)

“那好，路上小心。” (罗越译《羊与钢的森林》)

(16) 「ちょっと待てくれ。シロがどんな死に方をしたか、おまえは本当にそれも知らないのか？」 (村上春樹『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』)

“等一等。白是怎么死的，你真的知道吗？”

(施小炜译《没有色彩的多崎作和他的巡礼之年》)

(17) 「だけどさ、そのことをあまりとやかくいわないでやってくれ。結構皆に気を遣ってるらしいんだ」 (東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』)

“不过你最好别提起这件事，因为他们似乎对公开很有顾虑。”

(李盈春译《大雪中的山庄》)

例(18)(19)は「希求・懇願」の意味で“请”で訳されている場合である。

(18) 「ちょっとちょっと！ 勝手なことしないでくださいよ、誰もいませんよ！」

(新海誠『天気の子』)

“等等，等等！请别乱闯，里面没有人！”

(林青华译《天气之子》)

(19) 「本当のことをいってくれ」と彼はいった。

(東野圭吾『ある閉ざされた雪の山荘で』)

“请你说实话。”他说。

(李盈春译《大雪中的山庄》)

例(20)は「希求・懇願」の意味で“吧”、例(21)は“请帮我”で訳されている場合である。

(20) 僕たちを、もうすこしだけこのままでいさせてください。(新海誠『天気の子』)

让我们就这样再待一会儿吧。

(林青华译《天气之子》)

- (21) 今度は「番号を調べてくれ」とは言わなかった。「この住所に、この名前の会社の登録がありますか?」と訊いた。

(宮部みゆき『火車』)

这一次本间没说“请帮我查电话号码”，而是问：“这个地址有没有登记这家公司?”

(张秋明译《火车》)

6. おわりに

本稿では、日本の現代小説に現れる「てくれる」表現が、どのように中国語に翻訳されているかを明らかにした。その結論を以下の5点にまとめる。

①「てくれる」は誰(何)かが自分または自分の側の者に対して何かをすることを示す表現である。そのため、上記の例(5)(6)(7)(8)(9)(13)(14)のように、中国語はその恩恵あるいは迷惑を受ける側をはっきりさせて訳出し、日本語の「てくれる」表現が示す「だれに」を中国語で明示する傾向がある。

②日本語の原文で、動作の主体、利益、恩恵の与え手あるいは話し手と受け手が明示されている場合、例(1)(2)(3)(4)(10)(12)のように中国語は、与え手と受け手により「てくれる」構文の授受関係を明示できるため、「てくれる」に当たる表現があまりなく、省略する場合が多い。

③「てくれる」は、日本語では感謝(恩恵)を表すことが多いが、中国語では動作行為そのもので恩恵を表すことができるため、中国語では「てくれる」に対応する意味での恩恵を表すことが少ない。そのため、例(1)~(4)のように訳されない場合が多く、“给”で表現されることもごくわずかであると考えられる。

④「許可・許容」は、森田(2002)で示された「(AニCヲ~(さ)せてくれる)」の形式に従っている。そのため、例(13)(14)のように「させる」が中国語の使役動詞“让”に当たり、「てくれる」は対象が誰であることを示す役割をしていると考えられる。

⑤「希求・懇願」も、同様に「~てくれ/~てください/~てちょうだい」の形式に従っている。そのため、例(18)~(21)のように“请”、“吧”等て訳出する場合と例(15)~(17)のように訳さず、中国語の文全体で「希求・懇願」の意味を表す場合がある。

以上のことから、日本語に「てくれる」という表現があっても無理に“给”で訳す必要はなく、逆に中国語に“给”の表現がなくても、日本語では「てくれる」を表示しなければならないことを指摘しておきたい。

今後は、「てくれる」以外に「てもらう」、「てあげる」の中国語表現についても調査・分析を進めていきたい。

注

- 1 とくに顕著な受給動詞「やる・くれる・もらう」を述語とする構文である。
- 2 たとえば、「書いてもらう」においては、「書く」主者と「もらう」主者とは、明らかに別であって、「A が B に書いてもらう」という場合ならば、「B が書く」という内的主述関係が、文の外的主述関係「A が～シテもらう」に包括され、「A が B に打たれる」という受身構文の内外二重の主述関係と対応的であると述べている。
- 3 補助動詞「～てやる（あげる）／くれる」を述語に伴った構文をあるとしている。
- 4 [着点]を表す二格名詞句を指す。

参考文献

- 相原茂（2006）『日中辞典』講談社。
- 進藤真理（2012）「日韓両言語における授受表現の対照研究」人間文化研究所年報 26：203-217。
- 対外経済貿易大学・商務印書館・小学館編（2015）『日中辞典』小学館。
- 党淑蘭（1991）「中日の授受表現比較」『佐賀大國文』19、佐賀大学教育学部国語国文学会編：34-38。
- 成戸浩嗣（2017）「日中対照研究方法論（3）——“V+O+ 給・N”表現をめぐる日中対照（下）——」『現代マネジメント学部紀要』第6巻第1号、愛知学泉大学現代マネジメント学部：19-34。
- 西川真理子（1995）「『てくれる』についての一考察『てやる／もらう』との比較から」『言語文化研究』21、大阪大学言語文化部：241-254。
- 日本語教育学会編（2005）『新版日本語教育事典』、大修館書店。
- 馮富榮（1995）「中国人の日本語授受文の学習過程における母語（中国語）の影響について」、『名古屋大学教育学部紀要、教育心理学科』42、名古屋大学教育学部：135-147。
- 古川俊雄（1996）「通時的観点から見た現代日本語における「くれる」の特殊用法」、『広島大学教育学部紀要』6、広島大学教育学部日本語教育学科：45-52。
- 前田富祺（2001）「あげる」「くれる」成立の謎——「やる」「くださる」などとの関わりで、『月間言語』4月号、大修館書店：34-40。
- 前田直子（2021）「敬語表現と文法——授受動詞の用法を中心に——」待遇コミュニケーション研究 18：52-67。
- 水野かほる（1994）「日本語授受表現に対する中国語話者の認識」、『名古屋大学人文科学研究』23、名古屋大学大学院文学研究科：105-122。
- 三宅知宏（1996）「日本語の受益構文について」『国語学』186：91-104。
- 宮地裕（1965）「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について『国語学』63：21-33
- 村上三寿（1986）「やりもらい構造の文」『教育国語』84号、むぎ書房：2-43。
- 森田良行（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房。
- 安本美典（2001）「あげる」「くれる」表現と「甘えの構造」、『月間言語』4月号、大修館書店：74-79。

（あん めいき 教育推進機構 基礎・教養科 非常勤講師）

